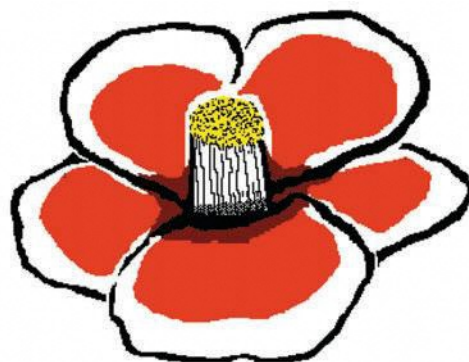


家畜衛生情報 つばき



季刊 第149号
令和6年 秋号



インターンシップ研修風景



目次

- P.2…高病原性鳥インフルエンザ発生状況
- P.3…豚熱、アフリカ豚熱発生状況
消毒法の提言～マイクロMIX法～
- P.4…子牛及び母牛の寒さ対策は万全でしょうか？
- P.5…県外導入牛(繁殖用)のヨーネ病検査をお願いします
死亡家畜の適正処理について
- P.6…受精卵移植講習会の一部が五島家保にて受講可能に！
ごとう農協地区別和牛共進会が開催されました
長崎県獣医師インターンシップ研修が開催されました

長崎県五島家畜保健衛生所
(五島振興局農林水産部家畜衛生課)

〒853-0031

長崎県五島市吉久木町725-3

TEL (0959) 72-3379

FAX (0959) 72-1023

E-mail s12230@pref.nagasaki.lg.jp



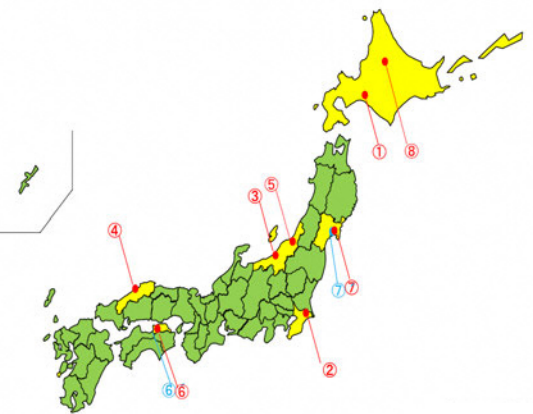
高病原性鳥インフルエンザ

●昨シーズンよりも早い発生です!!

令和6年10月17日、今シーズン初の養鶏場での高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) の発生が確認されて以降、令和6年11月12日現在、6道県8事例が確認されています。

また、令和6年10月4日、今シーズン初の野鳥等でのHPAIウイルスの検出が確認されて以降、令和6年11月11日現在、1道8県25事例が確認されています。

昨シーズンよりも早い発生で、全国のどこで発生してもおかしくない状況にあります。養鶏農家の皆様は防鳥ネットの確認や衛生管理の徹底、関係機関の皆様は農場立入時の対応（実践7項目等）について、今一度ご確認をお願いします。



(※青字は疫学関連農場)

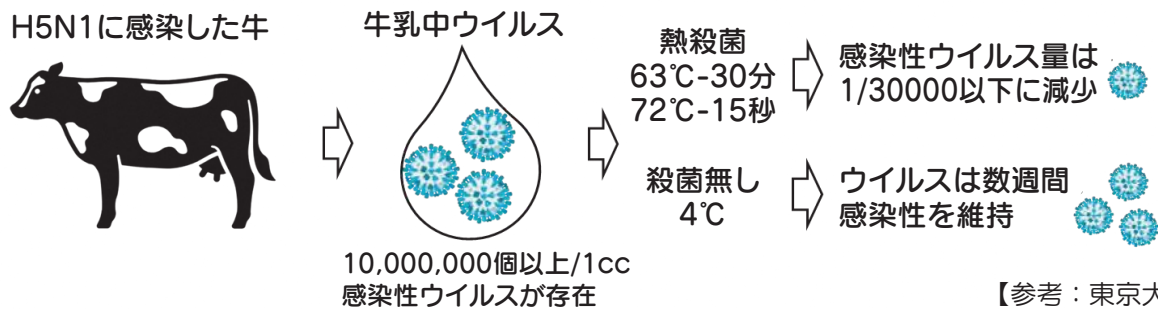
【参考：農林水産省】

●乳牛へのHPAIウイルス感染事例から

アメリカでは乳牛におけるHPAIウイルス (H5N1亜型) の感染事例及び感染乳牛と接触した人の同ウイルス感染事例が報告されています。

東京大学の研究では、熱処理の有無が牛乳中の同ウイルス量や感染性の維持に寄与すること(下図参照)、牛由来同ウイルスはヒトの上部呼吸器に発現するヒト型受容体に結合することが明らかになりました。

牛農家の皆様も、野鳥の畜舎侵入及び排せつ物等の飼料購入を阻止するための対策をお願いします。人への感染リスクもあるので、衰弱または死亡した野生の鳥獣には素手等で不用意に触らず、外出先から帰ったら石鹸で手を洗う等日常的な感染予防をお願いします。



【参考：東京大学HP】

●五島地域高病原性鳥インフルエンザ防疫演習を行いました

去る10月30日、円滑に防疫作業を実施できるよう標記演習を実施しました。

今年度は管内肉用鶏農場での発生を想定し、振興局職員を中心に防護服の着脱、防疫従事者の作業（捕鳥～フレコンバック詰め込みまで）を体験していただきました。

今後も防疫演習を実施し、迅速に初動対応が実施できるよう努めていきます。



豚熱、アフリカ豚熱

●野生イノシシ豚熱発生状況

令和6年6月から現在に至るまでに、佐賀県唐津市、玄海町、伊万里市で捕獲された野生イノシシ計31頭から豚熱ウイルスが検出されています。捕獲地点から半径10km圏内に本県の養豚農場はありませんが、陽性個体が発見された場所は長崎県寄りになりつつあります。なお、全国では令和6年10月30日時点で、7,909頭確認されています。

●養豚農場豚熱発生状況

令和6年11月、愛媛県四国中央市の養豚農場（約60頭）において94例目となる豚熱の患畜が確認されました。豚熱は平成30年、岐阜県での発生以降全国に感染が拡大し、169農場、6関連施設において発生が確認されています。野生イノシシの発生状況からも、本県への豚熱ウイルス侵入リスクは非常に高いと考えられます。

●韓国のアフリカ豚熱発生状況

韓国の養豚農場での初発生から現在に至るまで48の事例が確認されています。

令和6年以降、慶尚北道（韓国南部に近い）での発生が散見されており、今後韓国全土に感染が広がる可能性が考えられます。

登山者・キャンパーの皆様へ

アフリカ豚熱ウイルスの侵入防止にご協力をお願いします。

1

肉を含む食品は、
野外で絶対に捨てないでください！



2

靴の土は入山前、下山時にしっかり
落としましょう。



3

家畜がいる施設や野生イノシシ
の罠や柵に近寄らないようにしましょう。



4

消毒ポイントや洗浄ポイント
では指示に従ってください。



5

イノシシの死体を見つけたら
管轄の自治体に連絡して下さい。



農林水産省 消費・安全局 動物衛生課
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf.html>



消毒法の提言 ～マイクロMIX法～

逆性石鹼（パコマ、ロンテクト等）は多くの農場で使用されている消毒薬ですが、①低温下で効果が減弱②有機物存在下で効果減弱③エンベロープのないウイルス等への効果がない等の弱点があります。そこでマイクロ水酸化カルシウムを添加した混合液を用いる「マイクロMIX法」について、東京農工大学・名誉教授 竹原 一明先生からご紹介いただきました。

マイクロ水酸化カルシウムは医薬部外品として市販で購入できます。興味のある方は下表の作製法を参考にご利用ください。また、消毒薬の効果を存分に発揮してもらうためには、飼養衛生管理の遵守が不可欠ですので、よろしくお願いします。



混合液の作り方:資材	夏場1000倍希釈	秋から春500倍希釈
逆性石鹼	200ml	400ml
マイクロ水酸化カルシウム	400g	400g
水	200リットル	200リットル

【参考：公益社団法人畜産技術協会HP】

子牛及び母牛の寒さ対策は万全でしょうか？



だいぶ気温も下がり肌寒さを感じるようになってきました。人も気温の変化により体調を崩しますが、牛も気温の変化により体調を崩すことがあります。

子牛

成牛に比べ寒さに弱く、適温域（13～25℃）の範囲外では、体温を維持するため大量のエネルギーが必要となり、発育のためのエネルギーが不足します。さらに免疫力が低下すると下痢や肺炎を発症しやすくなります。下記に示した対策に気を付けて病気を発症しないよう気を付けましょう。

- **すき間風を防ぐ** 直接牛体に風が当たらないようにし、特に、寒さに弱い新生子牛については風が入り込まない個室の確保をお願いします。
- **保温対策** カーフジャケットやヒーターを用いて体温の低下を防ぎましょう。
- **牛床を冷やさない** 牛体がふん尿で汚れ、体温が低下しないよう、清潔・乾燥した状態に保ちましょう。断熱材を敷くと保温効果が上がります。
- **換 気** 牛舎を閉めきったままにすると、ホコリやふん尿によるアンモニアガスで呼吸器病が発生しやすくなります。定期的な換気をしましょう。
- **消 毒** 寒さで消毒薬の効果が低くなるため、有効濃度内で濃度を上げる、温水で消毒薬を希釈して使用しましょう。

成牛

(繁殖雌牛)

適温域は10～20℃とされ、黒毛和種は乳用牛に比べ寒冷に弱い性質を持ちます。寒冷環境では代謝が亢進することからエネルギー消費量は増加するため、摂食量の増加が必要です。

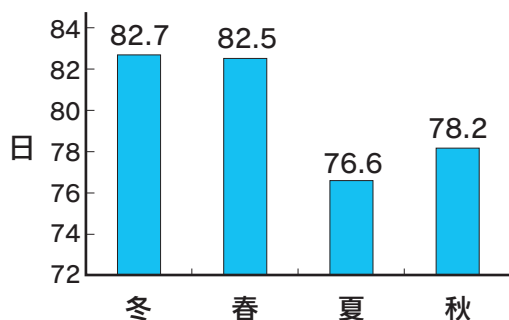
寒冷環境下では初回人工授精日数、授精回数、受胎日数が冬・春（12～5月）の方が夏・秋（6～11月）よりも多かったという報告があります。初回授精受胎率は冬・春の方が夏・秋より低かったそうです。

月の平均気温が14℃を下回ると、死産率が平均よりも高くなったという報告もあります。

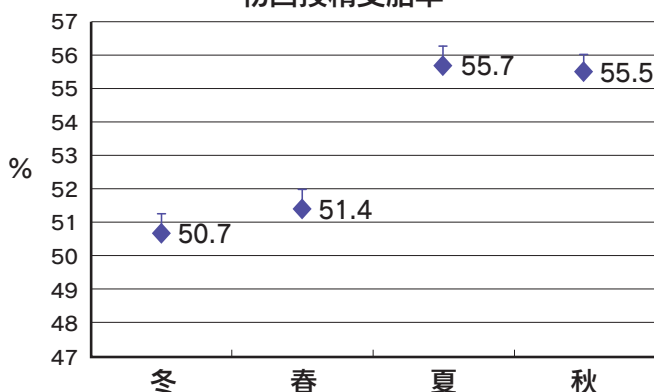
妊娠末期の1か月間に母体を寒冷状態、特に四肢末端を冷やしたり、湿潤環境で体温が奪われるような管理を行うと体内の血流の変化により胎子過大を起こし難産につながると言われています。

寒冷対策としては子牛の対策同様に湿潤環境を避け、暖かい分娩舎、乾いた床の提供が重要です。

初回授精日数



初回授精受胎率



[参考:「家畜診療」71巻10号]

県外導入牛(繁殖用)のヨーネ病検査をお願いします

ヨーネ病は、ヨーネ菌の感染により発症し、難治性の下痢等を呈し衰弱死をもたらす家畜伝染病です。本病に対する有効なワクチンや治療法は無く、家畜伝染病予防法において、患畜の殺処分等の対応が必要になります。

現在、全国で発生が確認されており、ひとたび農場に侵入すると、清浄化までに最短でも3年と長期に及びます。

県外導入牛(肥育用除く)について、ヨーネ病検査を実施しています。県外から牛を導入する場合には、事前に当所に連絡をお願いします。また、陰性であることを確認するまでは、他の牛と接触しないように隔離等の対策をお願いします。

ヨーネ病患者



出典:農研機構 動物衛生研究部門HP

令和5年次ヨーネ病発症頭数 詳細

県	戸数	頭数
北海道	408	945
青森	4	4
岩手	5	6
宮城	3	5
茨城	6	6
栃木	7	32
群馬	1	1
千葉	1	4
神奈川	1	1
新潟	2	2
山梨	7	9
長野	6	17
静岡	3	6
愛知	4	4
奈良	1	1
島根	1	1
岡山	1	2
熊本	2	4
宮崎	3	3
鹿児島	5	7
合計	471	1,060

死亡家畜の適正処理について

家畜の死体は**産業廃棄物**に分類されます。たとえ自己所有地であっても、**産業廃棄物を勝手に処理・埋却を行うことはできません**。不適切に処分した場合、**廃棄物処理法及び化製場法違反**となり罰金または拘留などの罰則が科せられます。

畜産農家の皆様は、産業廃棄物をマニフェスト管理し、運搬や処理を業者に委託する場合は委託契約を行うなど、適正な処理をお願いします。

受精卵移植師講習会の一部が五島家保にて受講可能に！

令和6年7月16日(火)から8月9日(金)までの約3週間、家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植に関する講習会が開催され、五島からは1人受講しました。

今年から座学をWEBによる受講とし、7月22日から26日まで当所にて受講しました。初めての試みであり、画像が止まったり暑い中エアコンが止まるなどありましたが、無事に終了しました。

家畜人工授精師講習会および受精卵移植師講習会は隔年で開催されます。家畜人工授精師または受精卵移植師講習会の受講希望の方は早めに当所までお知らせください。

ごとう農協地区別和牛共進会が開催されました

令和6年10月4日(金)に晴天に恵まれ、第17回ごとう農協地区別和牛共進会が開催されました。今年は福江・大津・崎山・久賀・本山・富江・玉之浦・三井楽・岐宿地区合同で開催されました。出品牛は1区(14ヶ月齢未満)9頭、2区(14ヶ月齢以上17ヶ月齢未満)11頭、3区(17ヶ月齢以上20ヶ月齢未満)10頭の計30頭が参加しました。

名誉賞は阿野光弘氏出品の「さとみ号」(幸男-安福久-百合茂)が受賞しました。令和9年8月26日～30日に北海道にて第13回全国和牛能力共進会が開催される予定です。五島から1頭でも多く代表牛となるよう頑張りましょう。



長崎県獣医師インターンシップ研修が開催されました

去る9月2日から6日にかけて、五島地区において長崎県獣医師インターンシップ研修が開催され、5名の獣医学生が参加しました。本研修では獣医学生を対象に、家畜衛生をはじめ産業動物に係る業務への理解を深めてもらうとともに、本県の魅力を知ってもらうことを目的としています。

5日間の短い期間でしたが、「プライベートでもまた来たい」「他の獣医師や関係機関との関係が良好で働きやすそう」「家保職員が実際に仕事をしている様子をもっと見たい」「繁殖巡回前に臓器研修を行ったので、臓器の位置関係がイメージしやすかった」などの感想があり、充実した研修となったようです。一人でも多く本県に獣医師として来てくれることを期待したいと思います。

学生の受入れでご協力いただきました畜産農家、関係機関の皆様におかれましては、お忙しいところ誠にありがとうございました。

5日間の研修、
大変お疲れ様
でした！

